

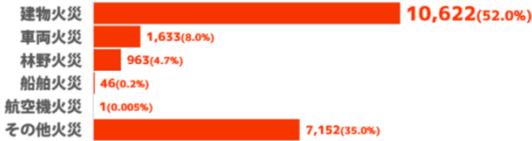
総火災件数

(2022年1~6月)

20,417 件

前年同期比

327件↑



火災原因 上位10

件数 (構成比)

1	たき火	2,170	(10.6%)
2	たばこ	1,830	(9.0%)
3	こんろ	1,392	(6.8%)
4	火入れ	1,347	(6.6%)
5	放火	1,152	(5.6%)
6	電気機器	896	(4.4%)
7	放火の疑い	799	(3.9%)
8	配線器具	772	(3.8%)
9	電灯電話等の配線	769	(3.8%)
10	ストーブ	721	(3.5%)

動向ジャパン サイトから

タバコの煙を吸うには火をつけなければなりません。近年は火を使わない加熱式タバコが広まってきたので、紙巻タバコの使用者は減ってきていますが、まだまだライターを手放せない喫煙者は多いと思われます。

そこで、左のグラフを見て下さい。消防庁の発表によると昨年1~6月には全国で20,417件の火災があり、その約1割に相当する1,830件がタバコによるものでした。これは、原因別の2位となるほど多い件数です。

タバコの火は炎が見えないので、しっかり確かめなければ消えていない事があり、そんな状態のタバコを放置すると写真のような火災になってしまうのです。火がついていないように見えても、炎も煙も出ない無炎燃焼が進行し、あるとき一気に炎があがる様子がわかります。

現在、おおよそ3,000万人程度いると推測される喫煙者が、毎日10本ほどのタバコに火をつけているとすると、その火種の合計は3億本にもなります。3億本のタバコの火を確実にすべて消火できるでしょうか。3億本のうち、“たった1本”でも写真のような状況になれば、かけがえのない家屋、財産、さらには人命まで奪う事につながるのです。

一旦、ニコチン依存症になると生涯で一体どれほどのタバコに火をつける事になるでしょうか。そして“たった一本”の消し忘れも出さずにすませるでしょうか。

そう思うと、タバコを吸い始めない事が、一番安心できるはずです。

産業デザイン科 奥田恭久



『たばこの小さな火種から火災発生！』
横浜市消防局作成映像から